



# 川口の豊かな干潟を、子や孫へとつなぎたい

## ～ 川口二枚貝保全活動組織 ～

### 川口地区について

川口地区は、熊本市の西南部に位置し、宇土市との境界にあります。境界には、たくさんの栄養を有明海に運ぶ緑川があり、その河口前面には大きな干潟が広がっています。

川口地区は、農業と漁業の町で、米やトマトなどの野菜、ハマグリやアサリ、海苔などを生産しています。



### 川口地区の干潟について

有明海の干潟面積は、1989年時点で207km<sup>2</sup>を有し、全国の干潟面積の約40%を占めています（環境省1994年）。

その中でも、川口地区を流れる緑川の河口干潟は約22km<sup>2</sup>を有しており、砂質干潟としては日本で最も規模が大きいといわれています。

干潟には、ハマグリやアサリなどの貝類が数多く生息しています。また、干潟前面は海苔の生産場であり、熊本市の3漁協と、隣接する宇土市の2漁協がこの干潟で採貝業や海苔養殖を営んでおります。

このように恵み多き干潟ですが、ホトトギスガイの異常発生や2012年の九州北部豪雨による土砂の堆積などの影響で、現在、有用な二枚貝資源が大きく減少しており、その回復が急務となっています。



### 二枚貝資源の供給基地を確実につくる

ハマグリ・アサリなどの有用な二枚貝資源の再生を図るために、本組織ではこれら二枚貝の供給基地として母貝の保護区を設置し、その場の環境や貝の保全を着実に実行する取り組みを実施しています。

設定した保護区の面積は約2.8ha。エリアの縁辺部には、ナルトビエイの侵入を防止する目的で、海苔養殖で使用するコンボースを約20～30cm間隔で立てています。保護区の中は、管理しやすいように、底質改善区（耕うんや客土等）とハマグリ母貝区、アサリ母貝区の3つの区画に分け、活動を行っています。

ヨイショ（腰巻きジョレン）や徒手による耕うん・ツメタガイ除去・ホトトギスガイ除去、加えて母貝区では地区の干潟で採集したハマグリやアサリ母貝の移植、母貝の移動や食害を防ぐ被覆網の設置など、様々な取り組みで母貝を保護しています。

さらに、保護区に隣接する場所では、稚貝の沈着を図るために、試験的に竹しばを設置する取り組みも行っています。また、干潟だけでなく、河口に広がるヨシ帯の維持を図る目的で毎年3月に刈り取り作業を行っています。



### 川口二枚貝保全活動組織について

- 設立：平成24年11月27日
- 目的：干潟や河口域のヨシ帯の機能回復活動を通じて、地先の干潟環境の保全を進め、地域資源の維持・回復を図る。
- 体制：漁業者、川口漁協（286名）
- 活動：活動項目及び26年度スケジュールは、下記のとおり。

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
客土						○	○					
耕うん												→
ツメタガイ等除去			○	○								
保護区の設置・管理				○	○							
稚貝等の沈着促進	○							○				
二枚貝の移植			○	○	○	○						
浮遊・堆積物の除去							○					
モニタリング			○				○			○		
ヨシ帯の刈り取り												○
モニタリング			○									○

### 取り組みの成果と今後の課題

ハマグリ母貝区については、26年1月に生息密度が一端減少しましたが、産卵期前の6月には昨年10月の水準まで回復しました。その時のハマグリは平均48mmであったことから、産卵群として寄与したと考えられ、一定の成果が得られました。一方、アサリ母貝区については、1月以降、低い水準で推移したことから、6月と8月に地先のアサリを移植しましたが、その効果は得られませんでした。

アサリ母貝区については、今後、アサリの生息状況をより詳しく調べ、効果が認められない原因を解明していきたいと思っております。

